

真実を知ってください

ヒロイン

スリム
シン

日
スキヤック
ホース

drugfreeworld.org



この小冊子が制作された理由

街中や学校、あるいはインターネットやテレビの中で、薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

そうした薬物情報の多くは、売人によって広められたものです。今では更生したかつての売人は「薬物を買ってもらったためなら、どんな嘘でも言っていた」と証言しています。

そのような情報にだまされないでください。薬物乱用という罠を避けるためには、事実を知る必要があります。この小冊子はそのために制作されたものです。

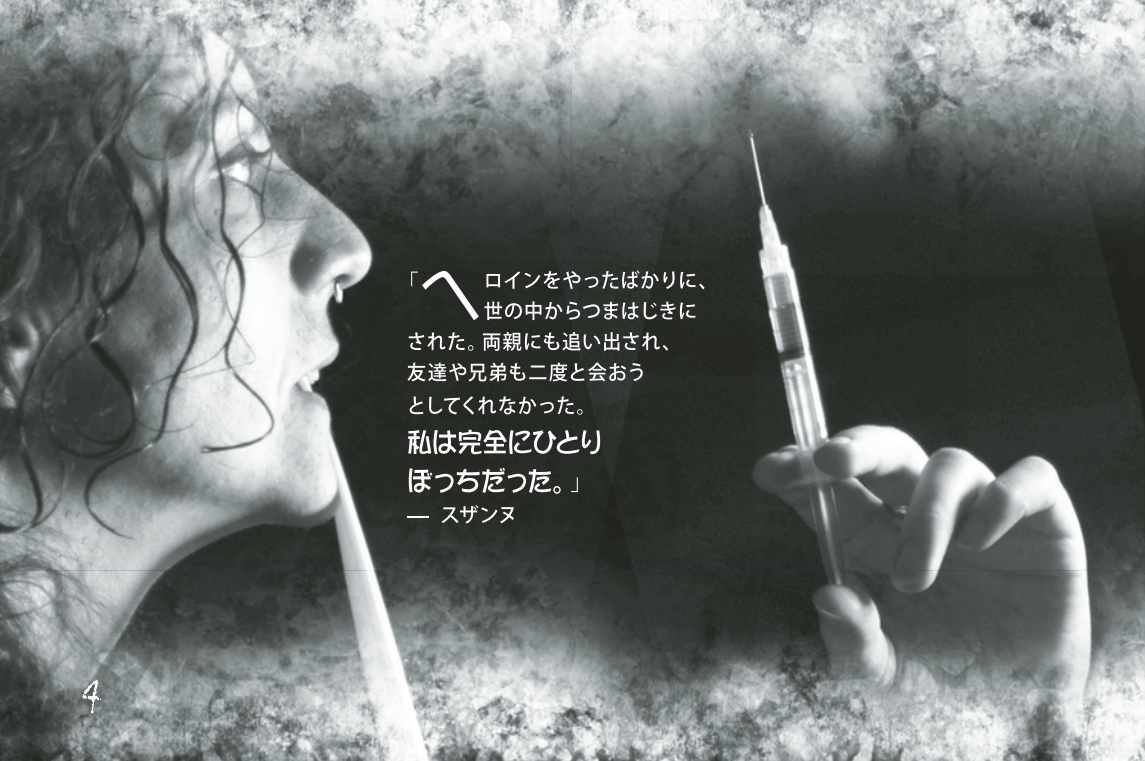
この小冊子をお読みにになった上で、皆様のご意見やご感想をウェブサイト **drugfreeworld.org** から、またはEメール **info@drugfreeworld.org** までお寄せください。

ヘロインとは？

ヘロインは、非常に強い中毒性を持つ違法薬物です。この薬物の中毒者は世界中に何百万人もいます。そういった人たちは、この薬物を毎日取り続けたいという衝動を抑えることができません。もし使用を止めれば、恐ろしい禁断症状に苦しめられるからです。

ヘロインはアヘンやモルヒネと同様、植物のケシの樹液から作られます。ケシの未熟蒴果からアヘンが抽出され、これを精製するとモルヒネになります。それをさらに精製すると、さまざまな種類のヘロインになります。

多くの場合ヘロインは注射によって用いられますが、これには別の危険性があります。中毒による苦痛だけでなく、AIDS（エイズ）などの感染症の危険にもさらされます。



「ロインをやったばかりに、
世の中からつまはじきに
された。両親にも追い出され、
友達や兄弟も二度と会おう
としてくれなかった。

**私は完全にひとり
ぼっちだった。」**

— スザンヌ

ヘロインの起源

ヘロインは、ドイツのバイエル製薬によって1898年に初めて製造されました。そしてその後、結核やモルヒネ中毒の治療薬として市場に出されました。

悪循環

1850年代、アヘン中毒はアメリカ合衆国の大きな社会問題でした。その「解決策」は、より作用が弱く「中毒性がない」と見られていた薬物、すなわちモルヒネをアヘン中毒者に与えることでした。モルヒネ中毒はすぐにアヘン中毒よりも大きな問題になりました。

アヘンの場合と同じように、モルヒネの問題はまた別の「中毒性がない」薬物によって手が打たれました。

それがヘロインです。しかし、それは実際にはモルヒネよりもさらに中毒性が高かったのです。ヘロインの問題に対して、さらにまた別の「中毒性のない」薬物が登場しました。現在では「メタドン」として知られている薬物です。この薬物は、1937年に外科手術用の鎮痛剤を研究していたドイツの科学者たちによって最初に開発されました。1947年にアメリカ合衆国に輸出され、「ドロフィン」という商品名が付けられました。この薬物はメタドンと改名され、すぐにヘロイン中毒の治療薬として幅広く使用されるようになりました。しかし不幸なことに、この薬物はヘロインよりもさらに中毒性が高いことがわかったのです。

1990年代の終わりには、ヘロイン中毒者の死亡率は、中毒ではない一般の人々に比べると20倍にも上るほどになりました。



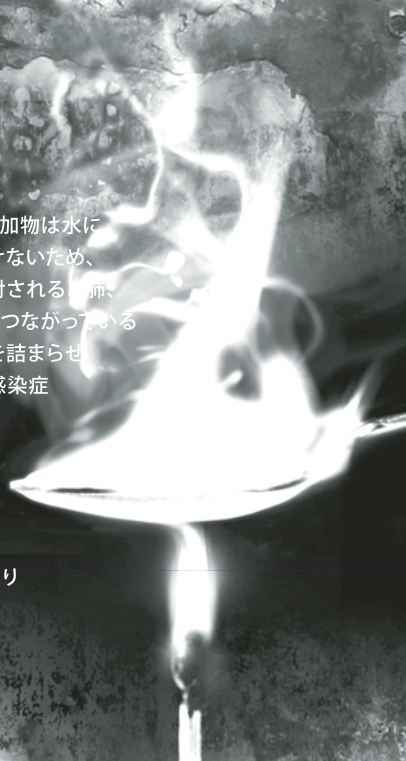
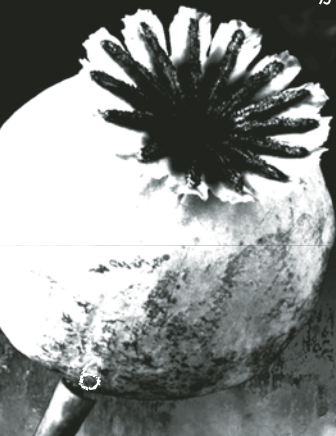
ヘロインの形状は？



ロインの最も純粋な形は、きめ細かい白色の粉末です。しかしたいいの場合、それは赤みが

かった灰色、茶色、黒色となっています。こうした色合いは、ヘロインを薄めるために使われている砂糖やカフェインなどの添加物によるものです。街で売られているヘロインは、ストリキニーネ（マチン科植物の種子に含まれる猛毒）などの他の毒物が混ぜられていることがあります。

こうした添加物は水に完全に溶けないため、体内に注射される時、腎臓、脳につながっている毛細血管を詰まらせ、その結果感染症を起こしたり、身体の大切な臓器が破壊されることがあります。



ヘロイン の通称

街でヘロインを買う人は、自分が購入した薬物が実際にどれ位強いのかを知ることができません。そのため、使用者は常に過剰摂取の危険にさらされています。

ヘロインは静脈注射やスニフing（鼻から吸引）、喫煙など、さまざまな使用方法があります。ヘロインを初めて使用した時は「強烈な陶酔感」を生み出します。外交的になったように感じたり、また人々と簡単にコミュニケーションを取れるようになったと感じたり、性的能力が高まったように感じますが、それらは長続きしません。

ヘロインには強い中毒性があり、使用を中止すると激しい苦痛に襲われます。この薬物は、免疫系をあっという間に破壊します。常用者はやがて病気がちになり、極端にやせ衰え、ついには死に至ります。

- ビッグH
- H（エッチ）
- ジャンク
- スキャッグ
- ホース
- スマック
- サンダー
- ヘル・ダスト
- ゴーズ・ドロップス



「**薬**物を使い始めたその日から、もうやめられなくなった。ヘロインを吸うだけでは物足りなくて、1週間もしないうちに注射を打つようになった。1ヵ月後にはもうやめられなくなって、一文無しになっていた。お金に換えられるものはすべて売り払い、しまいにはママの物も全部売ってしまった。1年で何もかも失った。

薬欲しさに車を売り、職を失い、そしてママからは家を追い出され、クレジットカードの借金なんか2万5000ドル（約280万円）もあつた。

ニュージャージー州のカムデンの路上でホームレス生活することになって、詐欺や盗みも働いた。

レイプされ、殴られ、強盗に襲われ、逮捕され、ホームレスになって、最後には病気になって絶望的な状況だった。こんな生活をいつまでも続けられるわけがないのはわかっていた。このまま行くと死ぬと思ったけど、薬漬けの人生に比べれば、死んだ方がまだましだった。」— アリソン

国際的な統計

世界全体で、1350万人がヘロインを含むアヘン系の薬物を使用していると推計されます。そのうち920万人がヘロインの使用者です。

- 2007年には、世界全体でアヘン（ヘロインの原料）の93パーセントがアフガニスタンで生産されています。その輸出総額は約40億ドルに上り、4分の3が密売人に渡り、4分の1がアフガニスタンのアヘン農家に渡ります。
- アメリカ合衆国の「2007年・薬物使用と健康に関する全国調査」によると、アメリカにはヘロイン常用者が15万3000人いると報告されています。その数は90万人に達するという調査もあります。
- ヨーロッパ薬物と薬物中毒に関する監視センターの2008年度の報告によると、ヨーロッパでの薬物絡み

の死亡事故の80パーセントに、アヘン系の薬物、主にヘロインが関与しています。

- アメリカでは、薬物やアルコールのリハビリ施設に入る人の18パーセントが、アヘン系の薬物、主にヘロインの常用者です。



「ト ラッグは死に等しい。そこから抜け出さなければ死んでしまう。
薬物中毒っていうのは、監獄に入るようなもの。最初は薬物の
おかげで面倒なことや嫌なことから逃げられるから友達みたいに
思えるけど、すぐに朝起きたら薬物のことばかり考えてる自分に
気づくようになる。」

薬物を探し、薬物を取ることで1日が過ぎていく。
午後はいい気分ですられるけど、夜はヘロインなしでは眠れない。
そのためだけに生きようになる。監獄にいるのも同然。
ひっきりなしに壁に頭を打ち付けても何もならない。

最後にその監獄があなたのお墓になる。」 — サブリナ

ヘロインの破壊的な影響

すぐに生じる弊害：ヘロインを初めて取ると、まず拒絶反応から強烈な吐き気に襲われます。使用を繰り返して身体が慣れた頃に示す次の反応は、高揚した感覚、つまり「快感」です。これはたいてい、皮膚が熱くなるような感覚や口の渇きを伴います。

これらの作用が消えた後、使用者は何時間も続く眠気に襲われます。呼吸や心臓の鼓動といった基本的な身体の働きが低下します。

効き目が薄れてから数時間たつと、身体がまた薬物を欲するようになります。もし薬物を取らなければ、禁断症状が始まります。禁断症状は身体と心の両方に起こり、非常に激しいものであるため、ヘロインをまた取らなければ収まりません。その症状は、不安、関節の痛み、下痢、嘔吐、ひどい不快感などです。

使用者が求める強い快感はわずか数分しか続きません。続けて使っているうちに、ただ「普通」の状態でいたいだけでも、薬物の量を増やさなくてはならなくなります。

短期的な影響

- 偽りの多幸感
- 呼吸が遅くなる
- もうろうとした気分
- 吐き気、嘔吐
- 鎮静、強い眠気
- 激しい悪寒
- 昏睡、死（過剰摂取による）

長期的な影響

ヘロインを長期間使用すると、身体に破壊的な影響を及ぼします。度重なる注射のために静脈が破壊され、血管や心臓の感染症になることがあります。また体全体の働きが低下するため、結核*になることもあります。関節炎もヘロイン中毒の長期的な影響のひとつです。

ヘロイン中毒者は、よく同じ注射針を仲間うちで使い回します。これはエイズなどの伝染病につながります。

ヘロインの禁断症状は恐ろしいものです。全身の関節や筋肉に激痛が走り、ものすごい悪寒に襲われます。その禁断症状から逃れるために、繰り返しヘロインを取り、心身ともに廃人となっていくのです。

合衆国では毎年新たに3万5000人がC型肝炎ウイルスに感染していますが、その70パーセント以上が注射針を使用している薬物乱用者です。

「ヘロインは最高だと思っている人もいるけど、すべてを失うことになるんだ。仕事、両親、友人、自信、家までもね。嘘や盗みが習慣になる。誰も、何も尊重できなくなるんだ。」

— ピート

* 結核：肺などの器官が侵される感染症。

長期的な影響

- 虫歯
- 歯茎の炎症
- 重度の便秘
- 冷たい汗
- 皮膚のかゆみ
- 免疫系の衰弱
- 昏睡
- 呼吸器の病気
- 筋肉の衰弱、部分的なマヒ
- 男性の性的能力の減退と
長期のインポテンツ
- 女性の月経不順
- オルガスムに到達
できない（男女とも）
- 記憶力と知的能力の低下
- 内向
- 抑うつ感
- 顔の吹き出物
- 食欲の減退
- 不眠症
- 全身の激痛

注射針の
使用が原因
で、全身に
はれ物が
できた16歳
の中毒者



ヘロインの乱用は心と体を破壊し尽くします。

「1回試してみるだけさ。」

警告：たった1回ヘロインを取っただけでも、
中毒になります。

ヘロインを試そうとしている多くの人がこう考えます。「1回か2回試してみるだけさ。いつでも止められる。」しかし、いったん取り始めると、もう後戻りできなくなっている自分に気付きます。15歳の中毒者、サムはこう言っています。「やり始めた頃は、たいいてい吐いたり気持ち悪くなったりするんだけど、すぐにまたやりたくなる。何かに取り付かれたみたいに、ヘロインから離れられなくなるんだ。ヘロインを打てばいい気持ちになるから、もっとほしくなる。ヘロインなしでは生きていけなくなって…そうやって泥沼にはまっていくんだ。」

ヘロインを試すのは、中毒症の恐怖よりもさらにひどい、最悪の結果を招くことがあります。21歳のジムは、いつも友人とビールを飲んで夜を過ごしていました。彼は以前にヘロインを試してみたことがあったので、友人たちからヘロインを鼻から吸引するよう勧められた時、それに応じました。15分後、彼は突然意識を失い、深い昏睡状態に陥りました。それは2ヵ月以上続きました。現在彼は車椅子生活で、文字を書くことができず、かろうじて読むことができるという状態です。彼がかつて持っていた夢や望みはすべて失われました。



ヘロイン・ルック

かつてヘロインは人々をおびえさせました。最近では、ヘロインの使用を「最新の流行」にしようとした人々がいます。

この10年間で「ヘロイン中毒スタイル」—うつろな表情、青白い顔色、目の下のくま、落ちくぼんだ頬、極端なやせすぎ、脂ぎった髪が人気のある雑誌やファッション関係者の間で「ヘロイン・ルック」や「ヘロイン・シック」という言葉でもてはやされました。ちょうど1960年代にロック・スターがLSDの

大衆化に手を貸したように、現代では何人かのファッション・デザイナー、写真家、広告業界の人たちが、雑誌や音楽ビデオを通じてヘロインの使用に「おしゃれ」「魅力的」というイメージを与え、若い世代全体に影響を与えています。

アメリカのファッション写真家、ダビデ・ソレンティ（右）の作品は「ヘロイン・ルック」のシンボルのような存在でしたが、皮肉なことにソレンティはヘロインの過剰な服用により、20歳の若さで亡くなったと報告されています。



すべりやすい坂道

まだ幼いののにタバコを吸ったり、アルコールを飲んだりする子供たちがいます。国によっては高校を卒業するまでには、十代の若者たちの40%近くがマリファナを試し、それからさらに中毒性の高いものを取るようになることもあります。

今マリファナを吸っている子供たち全員が、将来ヘロイン中毒になると決め付けることはできません。しかし、その危険性があります。アメリカ合衆国の高校生を対象にした調査によると、マリファナを最初に試さないで、他の薬物を使用する若者はほとんどいません。薬物を取る人は、求めている最初の「快感」が得られなくなると、薬物の量を増やすか、もっと強いものを探し始めるのです。

現実を直視しましょう

違法な薬物に接する子供たちが増えてきています。

アメリカ合衆国の2007年・薬物使用と健康に関する全国調査で、アメリカでは12歳から17歳の若者の1割近くが違法な薬物を使用していることがわかりました。2008年、コロンビア大学の全国薬物中毒・乱用センターは、大学生のマリファナ常用者が2倍になり、コカインやヘロインの使用も同様に増えていると報告しました。

国連の薬物・犯罪事務局によると、2008年の時点でアヘン系薬物（アヘン、モルヒネ、ヘロイン、合成アヘン剤）の使用者は世界全体でおよそ1600万人に上ると推計されています。

ヘロインの新たな面

不潔で暗い路地に崩れるように座りこむ物憂げな若いヘロイン中毒者、というイメージはもう過去のもので。今日では、12歳の中毒者がビデオゲームで遊んだり、同世代の音楽を楽しんだりしているかもしれません。彼は洗練されていて、スタイリッシュに見え、ヘロイン使用者によく見られる腕の注射痕のような痕跡は全くないかもしれません。

以前よりも使いやすく、安価なタイプのヘロインが入手できるようになったため、現在ヘロインはこれまで以上に人々の興味をひきつけています。

アメリカでは、ヘロインを使用したことのある十代の若者（12歳から17歳）の数が、1995年から2002年にかけて3倍に増えました。

腕に注射針を刺すことをためらう若者も、ヘロインを喫煙したり、鼻から吸引することには抵抗がないかもしれません。しかし、それは間違った安心感です。そのような取り方には危険が少ないと考える人もいますが、実際にはヘロインは、どんな形で取っても危険で中毒性があるのです。



「**私**」の妹は、ヘロインの過剰摂取が原因で亡くなりました。
小さい頃から素晴らしい芸術的才能を認められていた
妹だったのに。

妹は14歳の頃にはマリファナを吸っていました。15歳になってから付き合い始めた男の子がいて、その子が『マリファナよりもハイになれる』と言って妹にヘロインを勧めたのがきっかけだったんです。

妹はせっかく入学した美術学校を、ほんの数ヵ月で退学させられました。妹が22歳の時に電話がかかってきて、どこかと思えば『今、更生施設にいるの』と言うのです。

1年以上は薬物に手を出さなかったのですが、それからまた取り始めたんです。なぜそうなったのか、今となっては妹の日記に書き残されていたことから推測するしかありませんが、それを読むと、妹は毎日、薬物中毒と命がけで戦っていたんだというのがわかります。

ある朝、父から電話があり、妹が亡くなったことを知らされました。
こらえきれない悲しみに泣き叫びました。その時のことは一生忘れません。」
— ミーガン

薬物の売人がよく使う誘い文句

十代の若者へのアンケートによると、薬物に手を出すようになったそもそもの理由として、55%が「周りの雰囲気流された」と回答しています。彼らには「ダサイ」と思われたくない、カッコよく見られたい、という願望があります。薬物の売人はそのことをよく承知しています。

売人たちは、友達のような顔をして近付き、親切を装って「いい気分になれるもの」を教えてあげると持ちかけてきます。その薬物を使うと「周囲から浮いてると思われなくなる」とか「仲間の中で目立てる」というのです。

薬物の売人はお金だけが目当てです。薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言います。彼らは「ヘロインをやるとすごく癒される」「今までで最高のハイを味わえる」などと言ってくるでしょう。

売人は「お客さん」が払うお金にしか関心がありません。薬物のせいでその人の人生が台無しになっても気にしません。かつての売人たちは、薬物を買う人を「いいカモ」としか見ていなかったと証言しています。

薬物についての真実を知ってください。そうすれば自分自身で正しく判断できるはずです。

薬物についての真実

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量に違いがあるだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人の心にも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動

は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物はすべての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。

本当の解決策は、
事実を認識し、
最初から薬物など
使用しないことです。



なぜ人は薬物を取るのでしょうか？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避するため。
- リラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかありません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



参考文献

2008年 世界薬物報告書
国連薬物・犯罪事務所

White House Office of National
Drug Control Policy

合衆国国立衛生取締対策局

合衆国麻薬取締局

“Research Report Series—
Heroin Abuse and Addiction,”
National Institute on Drug
Abuse (U.S.)

合衆国保険福祉省

Center for Substance Abuse
Research (U.S.)

“Treatment Episode Data Set
(TEDS) Highlights—2006,”
Substance Abuse and Mental
Health Services Administration

“Results from the 2007
National Survey on Drug Use
and Health: National Findings,”
Substance Abuse and Mental
Health Administration (U.S.)

合衆国国立医学図書館

American Council for Drug
Education’s Annals of Internal
Medicine (April 1999)

The Lancet (UK)

アムステルダム市警察研究所
コロンビア大学医療センター
世界保健機関

European Monitoring Centre
on Drugs and Drug Addiction

“Message from the Chairman,”
The National Center on
Addiction and Substance
Abuse of Columbia University,
Fall 2008

写真:

5、12ページ: istock.com/Peeter
Viisimaa;

6ページ: istock.com/Stephanie
Horrocks;

13ページ: Stockxpert;

13ページ: U.S. Treasury
Department, Bureau of
Narcotics/heroin addict;

15ページ: Courtesy of
Francesca Sorrenti

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに22の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。新しいドラッグが次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっていきます。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

真実を知ってください：薬物

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤・吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

さらに情報を知りたい方、またはこの小冊子シリーズのいずれかをさらに何部かご希望の方は、下記までご連絡ください。



Foundation for a Drug-Free World
1626 N. Wilcox Avenue, #1297
Los Angeles, CA 90028 USA

drugfreeworld.org
info@drugfreeworld.org
1-818-952-5260

薬物のない世界のための財団
日本支部

〒170-0001 東京都豊島区
西巣鴨1-17-5

パークホームズ西巣鴨308

TEL: 03-5394-0284

Eメール: info@drugfreeworld.jp
drugfreeworld.jp